

嶺 朋 会 報

2017年(平成29年)
2月28日発行

発行責任者
嶺朋会長
松本 玲子

印刷 富士ニュース社



オリエンタルリリー
薔薇 (ハイブリッドティローズ)
バルブ (球根) マイガーデン

母校の大切なもの



嶺朋会長
松本 玲子

同窓生の皆様、お元気で過ごすごのと存じます。富士山も例年より早く、真っ白な雪で化粧をし、荘厳な輝きを放っております。現代社会の大きな流れの中で、母校は、いつも自分の青春時代と共により、しばし、思い出に浸ることもおありかと思ひます。

では、母校にとって大切なものとはなんでしょうか。それは、現在、学んでいる在校生であり、先生方のご指導であり、それを包含して支えている卒業生だと思っております。皆様には、家庭、職場、地域社会等で、よりよい状況をつくるために、活躍されていらつしやることでしょう。

さて、今年度の同窓会事業は、五月の総会、六月の高桜祭での「同窓会のお部屋」の開催など、皆様のご協力の下、順調に進んでおります。また、平成三十年(二〇一八)年には、母校が、百十周年を迎えるに当たり、記念誌発行を計画。編集会議を重ねております。資料等をまとめる作業の中、市内で一番歴史の古い

高等学校としての重みを感じる昨今です。

先日、理科の小川先生(同窓会の事務も担当して下さっています)から、昭和四十九年の『高樓』に、生物部が、『ハコネサンショウウオ』の研究で、大きな賞を頂いたことが、掲載されていることを、伺いました。今では、水量が少ない赤瀬川、須津川の上流で、ハコネサンショウウオが生息していたこと、当時の生物部の皆さんが、熱心に研究されていたことに感動し、「本物の学びとは何か」、を示唆されたように思いました。「あの頃は、良かった。」ではなく、良いことは、復活させたいものですね。

現在、在校生も一歩一歩、新たな母校の歴史を刻んでおります。一例ですが、筆曲部が、静岡県代表として、全国大会の出場を果たすなど、大きな実績を残しております。また、同窓生は、母校を通して、だれかと、どこかで、「つながる」、「つなげる」、「つながつている」のです。このことも、母校の大切なものだと思います。

末筆になりましたが、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

表紙のボタニカルアートは、昭和三十一年三月卒業の小島万里子さんの作品です。昨年、ご寄贈頂きました。

平成28年度

「嶺朋」総会を開催して

昭和40年卒 鈴木 博子

平成二十八年五月十五日(日)吉原高等学校嶺朋総会が、ホテルグランド富士に於いて開催されました。当番学年を担当するにあたり、三年前に学年理事と数名の同級生で、総会に参加させて頂きました。総会当番学年の多岐にわたる役割の重さを、目のあたりにし、早めの準備の必要性を感じました。早速、クラス幹事にご協力のお願いと、お知恵を拝借致し



たく、連絡させて頂いたのが、二十五年五月のことでした。

それから、松本会長様、神田副会長様、事務局の伊達様の適切なアドバイスに頼りながら、少しずつ準備にとりかかりました。実行委員も増員し、開催一年前には四十名の実行委員による実行委員会を結成し、何度かの役員会を経て、総会に臨みました。

当番学年である同級生の、総会参加の呼び掛けも、各クラス幹事は、三年前から少しずつ心の準備しておりましたが、昨年十月頃から本格的にスタートし、当日は八十名余りの同級生参加者を募る事ができました。総会当日、実行委員は八時二十分に全員集合しました。二百名以上の同窓生を迎えるべく、ホテルロビーで、改めて、今日までの準備の集大成として、今までと同様モチベーション高く頑張りましょうと声掛けあつて、受付、会場、それぞれの担当する持ち場につきました。九時過ぎた頃から、大勢の同窓生が集まり始めました。順調に受付も進み、十時になり、静かな雰囲気の中、総会が始まりました。

会長様を始め、校長先生、ご来賓のご挨拶を頂き、母校への誇りを強く感じられたひとときでありました。

喜寿の方々への花束贈呈、議事も和やかな雰囲気の中で、順調に進行し、最後に会場全員による、懐かしい校歌の斉唱で、会場がひとつになり、一部が終了しました。

第二部のアトラクションは、今年に日本の「和」をテーマに、そこに協力の「輪」を融合して「和」と「輪」のコラボでバラエティーに富むものになりました。初めに日本舞踊で「鶴亀」を内海香苗さんが、めでたく舞いおさめました。

続いて、新舞踊で「人生やぐら太鼓」を秋山和代さん・丹沢みなみさんのおふたりで、りりしく踊って頂きました。続いて、歌謡吟詠で、「ああ 壇ノ浦」を山下午恵さんに、しつとりと歌って頂きました。「和」の最後の伝統芸能では、皆さんに笑って頂くよう、民謡舞踊「安来節」を時田明子さん。長谷川美智恵さんのおふたりで楽しく踊って頂きました。

和やかな笑いに包まれたなか、会場では有志によるテーブルへの、ご挨拶もあり、時間の関係で、全テーブルには回れませんでしたが、皆様に温かい拍手を頂きました。「安来節」も終わり、最後は、会場の参加者全員に協力して頂き「茶摘み」と「花」の合唱で締めさせて頂きました。

心配していた時間も延びることなく、無事にアトラクションが終了し、実行委員一同ホッとしました。

その後、恩師、日比野精作先生による乾杯の御発声で、お食事となりました。今年、平成二十三年卒業の若い同窓生の参加もあり、後輩にも着実に受け継がれていく心強く感じました。

四十名の実行委員は無事終わった安堵感に浸りました。一年以上強い団結力と協力で進めてきた準備快い緊張感の中、心がひとつになった総会、総会に携わったすべてが、楽しく思われました。

多数、参加して応援してくれた四年度卒の同級生の協力も強い支えとなりました。

当番学年としての役割を、無事終了できましたのは、ご参加下さいましたご来賓の方々、大勢の同窓生の皆様方、そして、ご指導を頂きました会長様、副会長様、大勢の皆様方のお力添えの賜であり、ご協力があつたからこそです。皆様方のご厚意に、深く感謝し、心から、お礼を申し上げます。

末筆になりましたが、行き届かなかつた不手際等、ここでお詫び申し上げます。

今後の吉原高等学校、そして同窓会嶺朋の益々のご発展とご活躍を、心からお祈り申し上げます。ありがとうございます。

高 橋 祭

「同窓会のお部屋」から



昭和50年卒
高橋晴美

「久しぶり!!」「元気が?」数十年ぶりあるいは数年ぶりの友との再会を「同窓会のお部屋」が演出してくれました。容姿は面影を残しつつもそれなりにですが笑、声は皆若々しく、還暦とはいえまだまだ通過点の面持ちです。

卒業以来の生活館は昔と同じ藤色の外



観ですが、一步入れば女学生に戻ったようで懐かしいの一言でした。



同窓会のお部屋へ
嶺朋会員の作品

「同窓会のお部屋」は卒業生の皆さんの絵画、アートフラワー、書道、陶芸、刺繍などの素晴らしい作品が並び、さらながら個展会場のようでした。また部屋の中央に置かれたテーブル、憩いの場として、同窓生、在校生、先生方、一般の方々がお茶やお菓子を召し上がりながら歓談されていました。中でも印象的だったことは、今年四月の熊本地震で復興支援のシンボル「くまモン」を役員の安田さんに指導いただきながら紙バンドで作るコーナーでした。私自身も前日の準備の際、試行錯誤しながら作り、思い出の一つになりました。また、親子三代で訪れた方や男子生徒が無心で作っている光景はほほえましく、温かい雰囲気に含まれていました。

たものもあり、関わる事ができて本当に良かったと思えました。今年五回目の当番学年として不行届な点が多々あり、会長始め多くの先輩の方々に助けていただき感謝申し上げます。また、同期の皆さんには連日のお手伝いありがとうございました。

支部だより



富士宮支部
昭和40年卒
赤池節子

平成二十八年度も嶺朋富士宮支部総会を開催しました。一部は総会、二部アトラクション、三部は食事をしながら懇親。会場は、同窓生とのご縁で富士宮駅前の「富士宮グリーンホテル」、日時は、毎年七月第一日曜日の午前十時から約四時間ほど。「お久しぶり。」「初めまして。」と、卒業度と旧姓を載せた名札を首にかけて開きました。

役員は、支部長、副支部長二名、会計、監査二名ずつと顧問等の構成です。総会参加者の確認は、学年連絡係に協力していただいています。富士宮支部の組織は、この地で育つ

りがとうございました。最後に私自身、仕事や雑用に追われ余裕を失いがちな日常に、心穏い思い出となり、また昔の習いや趣味を復活しようと思わせてくれた貴重な一日になりました。報告させていただきます。

た方は少なく、嫁いで来て居を構えるなどの関係で成り立っており、同窓生の把握の難しさもあります。

平成二十二年度までは、当番学年をおき、年齢が五十五歳にあたる卒業年度が運営し、支部会費の五百円を地区役員が総会までに納入する方法で行われていましたが、日頃の出会でもない者同士、任務の難しさを感じる背景もあって、現在のあり方に変わってきました。会費、食事を代わり学年連絡係の呼びかけで約四十名位の参加がありました。

今後も、富士宮支部存続のためにと、平成二十九年度は情報発信手段としてローカル紙掲載を考え、総会時に提案し、了解をいただいで試みることにしています。口コミで参加を呼びかけるとともに目にとめてもらい、同窓生のよしみでお付き合いをと、願っております。本部嶺朋の発展をお祈り致します。



自分の居場所は



昭和45年卒
殿岡靖子

先日、吉原高校時代からの友人二人と日帰りバスツアーに参加しました。お定まりのコースの旅行でしたが、仲良し三人組でおしゃべりし続ける楽しい一日を過ごしました。三人それぞれ、高校を卒業して四十七年の間に、自分の居場所を築きあげてきたのだなと実感しました。

一緒に旅行した友人の一人は、大学卒業後、中学校の教師となり、三十八年間、土・日曜日も返上しての全力疾

走を終え、ようやく自分の時間をもてるようになりました。もう一人は、短大卒業後、歯科衛生士となり、現在は孫育てにいそしんでいます。

私はというと、短大卒業後、花嫁修業をし、二十一歳で縁あって結婚、一男一女の母となり、姑、義姉の経営する美容院を手伝うという、平凡な道を歩んできました。しかしながら、平凡とはいえ、悩まぬ日々であったわけはありません。

私が、「自分の居場所は、自分でつくらなければ」、「その居場所で、私でなければ」と必要とされる人間になろう。」と思い至ったのは、短大時代の友人が来訪した折、彼女の生き生きとした自由な生活ぶりを聞き、自分のあり方を考えたからです。姑も小姑もない夫婦と子どもだけのマンション生活。誰に気がねすることもなく仕事も趣味も楽しむ彼女の様子に、何だか自分がつまらない人生をおくっているようで、なさけなくなりました。水底に独りおいていかれたような気がしたのです。自分の人生だ。与えられた場で何となく生きるより、今の場所で自分が自分でいるための居場所を自分でつくらなければと思えました。そうして、私は積極的に地域に出ることにしたので、隣の葬式のお手伝いやお寺の奉

仕。つるし雛作りに、パッチワーク。農協の女性部の仕事に、ボランティア活動。失敗も多々ありましたが地域を知り、仲間がふえ、しつかりと今の地に足をつけて歩いている実感がもてるようになりました。もちろん、家業の美容師の資格もとり、結婚式の花嫁・花婿の着付けにも出かけ、分単位の仕事。

部活動の思い出から



平成4年卒
佐野和江

今年、親類の子が所属している箏曲部が、全国大会出場を果たしたという嬉しい一報が届き、良き青春時代を思い起こす機会となりました。

二年生のとき、家庭科の木下豪余先生の御尽力と富士の型染めグループに所属していた諸先輩方の御協力をいただき富士市独自の伝統文化を残していく一助になればと、現在の家庭部染色班の前身となる富士の型染め同好会が復活しました。

私は友人達を誘い、三年生の先輩達を入れて五人でのスタート。講師の先輩方の丁寧な御指導のおかげで、一人

しい仕事にもチャレンジしてきました。バスに乗り遅れ、源太坂を全力疾走し、息を切らせて教室に向かう私に目をとめ、いつもよりゆつくり歩いて下さった担任の温情や友人との輝いていた高校時代をなつかしく思い出すこの頃です。

一人が思い描く作品をつくりあげ、初心者ながらも富士市展に出品することもできました。翌年、染色部として新入部員を迎え入れ、すぐに引退してしまいました。後につながる事ができてホッとしたのを覚えています。今年に入って富士市立博物館主催の富士の型染め教室に通い、吉高生時代に部活を通じた出会いに感謝が湧きました。

「青は藍より出でて藍より青し」といいます。素晴らしい先輩方への敬意をもって、私も在学中の希望あふれる宝の皆さまと一緒に、高みを目指し学びたいと思います。

在校生の皆さんも、辛く苦しいときもあるかもしれませんが、長遠な時間の流れからみれば、この辛苦も一瞬、乗り越えていけることを信じ、情熱を忘れずに、真剣に学び、友と語りあいながら、高校生活を送ってほしいと願っています。

琵琶に出逢って



平成6年卒
井出朋江

五年前の夏の終りに、富士市に帰郷しました。そんなある日、「徳川家康」を見ていた折、前々から興味があった琵琶を習いたいと思ひ、検索しましたところ、なんと富士市に琵琶の教室があることが判明！すぐ連絡をとり、川島麗水先生(吉高の先輩です)をご紹介頂き、秋の初めに琵琶を習い始めました。琵琶は指の力が必要で、凜と

した音色を出すまでに時間がかかり、登場人物になりきって物語を語ったり、和歌や詩吟も入ったりと奥が深く、その魅力にどんだんのめり込んでいきました。一曲練習するのに全身に汗をいっぱいかいて、真剣勝負そのものです。歴史が大好きな私と琵琶の出逢いは、弁慶と牛若丸が五条橋で出逢ったような運命だったと感じます。この富士市で琵琶を習える奇跡、そして幸運に心から感謝しています。琵琶に限らず伝統芸能は衰退危機にあります。この灯を消さないよう伝統を守っていかねければなりません。日々精進と努力をかかさず、琵琶と人生を歩もうと思っています。

吉原高校と嶺朋会



平成23年卒
由井紀貴

私が吉原高校を卒業して七年。現在は、富士市の建設会社で働いています。高校時代を振り返ると、吉原高校の野球部で三年間を過ごしたことが、人生の分岐点だったと思います。吉原高校の野球部で学んだことは、野球の技術

はもちろんのこと、人としてのスキルアップ、社会に通用する人間性です。人との接し方や言葉遣いも学びました。学校生活でも授業や学校行事に積極的に取り組みました。このことが現在の仕事で本場に役立っています。

また、同期の仲間に出会えたことが何よりも財産となっています。高校を卒業した今でも、同期で集まる事が多く、私にとって欠かせない存在です。このような素晴らしい仲間に出会えた吉原高校と、野球を通じて人間性が向上するために指導してくださった顧問

同期会だより



沼津支部
昭和35年卒
鈴木元

鈴木不二夫先生と共に

これからしばらく女学校になるという最後の男子二十八名。担任は鈴木不二夫先生。一年時は二学級に分かれていたが二・三年時は一学級にまとめてくれました。「まとめるのがどれだけ大変か、おまえ校長やつんだからわかるだろう」と言われたことがありました。一学級二十八名にすれば、他学級が増え、違反になります。不二夫先生がどれだけ頑張ってくれたか想像できるといふものです。そんなこともあって、同窓会を開くた

の先生方には、本当に感謝しています。

さて、私は二年前から嶺朋総会に参加しています。まだ二回しか参加できておりませんが、吉原高校が更なる発展をするためには、嶺朋総会が欠かせないと思っています。なぜなら嶺朋総会ではたくさん幅広い年代の方々

びに先生に出席してもらいました。泊を伴う折は、富士ハイツでした。叙勲を受章されたときも、ご夫婦での出席でした。一人息子の鈴木俊夫氏は(立場が替わり私の教え子となりましたが)SBSの「イブアイ」に今も出演しています。その不二夫先生が平成二十三年二月四日入院されたとのことで、近藤幸男君と菊川の病院に見舞いに行きました。ゴホゴホと咳込み、余りに苦しうだったので、「お大事に。帰ります」と紙に書き、「ウンウン」と頷くのを見て帰って来ましたが、何となく胸騒ぎがしたものです。

二月六日計報が届き、十一日に告別式で代表として弔辞を読みました。平成二十八年二月十七・十八日熱海で同窓会を開きました。五名欠けていて二十三名の仲間です。先生の奥様が出席して下さいました。倒れたり病気だったりして、出席は十数名でしたが、昔の話に花が咲きました。これからも細々とですが、同窓会を続けて行こうと思います。

交流を楽しむことができ、吉原高校の卒業生でしか味わえない時間や価値があると、実感したからです。これから吉原高校を卒業する在学生及び吉原高校を卒業した卒業生には、ぜひ嶺朋総会に参加してほしいと思います。

学校だより

自由な研究



学校長 齊藤 浩幸

先日、顕微鏡ラック搬入のため、

生物室を片付けていた小川先生から、生物部の賞状が発見されたとの報告がありました。県知事賞など素晴らしいものばかりで、研究テーマは「ハコネサンショウウオの研究」で、昭和四十九年の「高樓」には、その研究報告が掲載されています。

ハコネサンショウウオは、幼生期には源流に近い溪流に棲息し、鰓と皮膚で呼吸をするが、成体になると鰓を失い、皮膚だけで呼吸し、陸上の湿地に棲息する珍しい生物です。「高樓」によれば、愛鷹山系の須津川や赤淵川を歩き、幼生を採取し、個体の体長を調査したこと、冷水器を用いて水温管理した水槽で採取した幼生を飼育し、体長や体色、成体変化を追跡したものの失敗したこと、水酸化カリウム水溶液を使い骨格標本



を作製したなどの記述もあり、当時の活動ぶりが窺え、県知事賞という名誉ある賞の受賞も納得するところです。昭和四十年代は、工業化の進行による環境悪化が現実化した時期で、高校の自然科学系部活動が工場誘致反対運動に参加したなどの話を聞いたこともあります。

現在の高校生は、すぐに「答え」を欲しがります。じっくり考えることを嫌がり、「答え」を教えてもらい安心する傾向があり、変化の速い時代に適応できるか不安です。

本校では、全校生徒が取り組む自由研究の導入を検討しています。中学校の「夏休みの自由研究」をイメージしてください。生徒が自由な発想で課題を設定し、解決していきます。先生は助言をしますが、指示はしません。ポイントは、先生方が待ちに徹することができるかです。導入当初は稚拙で、内容がない発表もあるかと思えます。しかし、生物部の地道な活動成果を記したレポートのように、校内で思考を楽しむ、無理難題に挑む校風が醸成できればと考えています。

生徒会本部

後期生徒会長 小林瑞季

後期の生徒会活動は、前期に比べ大きな活動が少ない。そこで私たちは、公約をより多く達成することを目標としている。例えば、清掃ボランティアを実施している。たくさん生徒に協力してもらいたいので、どのようにすれば良いか対策を考えていかなければならない。他にも、生徒にアンケートをとり、学校をもっと生活しやすい環境にしていくための活動も行っている。

また、後期生徒会は前期にある高樓祭の準備を始めなければいけない。後期生徒会の活動が高樓祭を成功させる大きな鍵となる。だからこそ、仕事をスムーズに行っていく必要があります。



のために早め早めの行動が大切だ。また、これからスローガンを決めたり、どんな高樓祭にするかを考えたり、慎重にやっていかなければいけないことが多い。私たち生徒会役員が全校生徒と共に努力を尽くし、より良い高樓祭をつくっていきけるようにしたい。

弓道部

部長 赤堀弘征



私たち弓道部は、顧問の山田英雄先生のご指導のもと、日々の練習に励んでいます。弓道は高校生から始めた人がほとんどで、慣れないこともたくさんありますが、大会で結果を残すためにがんばっています。

普段の練習では、お互いにアドバイスをするのを心掛けています。弓道は個人競技ですが、一人で練習しては決して上達することができません。アドバイスをする側も知識が無ければできないため、一緒に上達することができ



陸上競技部

部長 遠藤稜太

陸上競技と聞いて、「チーム」で戦うと考える人は少ないのではないでしょ

ます。また、自分ができなかったことができるようになるれば、他のできない人ができるようにアドバイスをすることができます。そうして、部活全体が成長できるようにがんばっています。

今年入部した一年生は必死に練習し、だいぶ上達しました。二年生も一年生に負けないように練習に取り組んでいます。次の大会では他の高校に負けないうよう、部員全員で頑張りますので、応援をよろしくお願いします。

英語部

部長 小川玲奈

うか。もちろんチームメイトが速く走れるからといって、自分まで速く走れるわけではないので、そういう点で見ればたしかに個人競技であることにかわりはありません。逆説的ですが、日々の練習の雰囲気や、大会当日のベンチの空気は、少なからず、いや、かなりが結果に影響します。練習で仲間が、一秒、一センチメートルに命をかけて練習する姿や、大会当日、自己ベストを目指し頑張る姿を見ると、自分も負けていけないと感じ、歯をくいしばって頑張り、それに感化されて仲間も負けられないと感じ頑張る。そのかけ合わせで、少しずつ強くなっていきます。よって「チーム」の力がとても重要だと思っています。私たち吉原高校陸上競技部は「チーム吉原」として一つになって戦うことをモットーとしています。まだまだ発展途上ですが、これからも応援をよろしくお願いします。

私たち英語部は、顧問の上田先生、ALITのジェリコ先生とジェイミー先生のご指導のもと、二年生十七名、一年生三名の計二十人で活動しています。私たちは英語の上達を目指し、本の

翻訳やショートスピーチをペアで考え発表を行ったり、スクラブルなどのゲームを用いて、日常生活でよく使われる表現や言葉を楽しむ学習しています。

これらの活動を生かし、今年度の高樓祭では、先生方に協力していただいた制作したDVDを上映しました。部員自ら場面ごとのセリフを考え、原稿を作りました。自分たちのアイデアをどう英語で表現すればいいのか、じっくりと考えることができ、とてもよい経験になりました。

英語部は明るくとても楽しい部です。

自然科学部

部長 久保有哉

私達自然科学部は、顧問の鎌田先生、小川先生のご指導のもと活動しています。

私達の部は活動があまり多くはなく、人数も少ないですが、部員全員で一回一



活動日数が限られている分、一回一回の活動が充実したものになるよう、これからも個性豊かな部員たちと共に部活動に励んでいきたいと思ひます。

回の活動を大切にして楽しんで活動しています。さまざまなサイエンスショーへ出展し、訪れてくれた方々に実際の体験を通して、科学を楽しんでもらっています。そのために、安全や、体験のしやすさ、小さな子供から大人までの多くの方々が皆、楽しめるように常に考えています。限られた時間で考え、作業をするので、大変なこともあります。無事にサイエンスショーが終わり、成功すると、とても達成感が湧きます。

安全や設備の関係で大きな規模の実験ができないので、身近な科学を楽しんでもらうことを目標にして、これからも活動していきたいと思ひます。



仲間の文芸

俳句

色褪せし雛の顔のやさしかり

昭和二十三年卒 高橋 福恵

山涼や雲間に現るる麓村

昭和二十七年卒 竹川寿美枝

秋涼し慈母観音の句碑の前

昭和三十年卒 加藤ふみえ

靈峰を雲かけのぼる野分晴

昭和三十年卒 望月 光代

峡空や四方に水音芽吹く音

昭和三十二年卒 近藤 幸子

待春や音こまやかな厨事

昭和三十七年卒 三木 政代

ものがたりはじまるやうに梅咲けり

昭和五十五年卒 都築日差子

短歌

夕さればをちこちにすだく虫の声
薄暮の空に満月の冴ゆ

昭和二十七年卒 田村百合子

三千度の光降りけり七十年前
世
界は今も熱さを秘めて

昭和三十一年卒 古館 秀雄

被災地も照らしむむ月に手を合は
す 復興と平安の日の早かれと

昭和三十一年卒 松下 孝子

限りある時のはかなく文机の砂時
計の砂のさらさらと落つ

昭和三十四年卒 松本 芳子

あかあかと曼珠沙華咲く奥津城か
孫の結納亡き夫に告ぐ

昭和三十六年卒 井上 芳枝

長雨のあがりし朝をくきやかに山
肌青く富士ヶ嶺立つ

昭和三十八年卒 保科 祥子

コスモスのやさしくゆれる野の道
を自転車デビューの孫のあと追ふ

昭和三十八年卒 内野 治子

濃厚な香りふりまき誰を待つ月下
美人の花未だ開かず

昭和三十八年卒 太田 若代

わが足をかばひて友の伸びたる手
緑の風吹く金時山

昭和三十九年卒 漆畑 典子

あぢさゝるの花より生れしかしじみ
蝶雨の狭庭に淡あはと舞ふ

昭和四十二年卒 高橋 泉

支部長名簿

平成29年2月現在

支部名	氏名	卒年
吉原	太田 素雅	51
今泉	鈴木 敬子	43
伝法	影山 清美	39
広見	小林 昭子	40
青葉	佐野 敏江	31
大淵	高橋 恵子	44
原田	市川喜和子	40
吉永	豊田 幸子	34
須津	干坂 岸子	37
元吉原	米山てる美	38
今泉北	渡辺 昌則	27
吉永第2	望月留美子	43
富士見台	川島 けい	46
浮島	太田 若代	38
鷹岡	大村 典子	42
岩松	影山 玉実	53
富士北	平井 洋子	38
富士南	鈴木 紀子	34
田子浦	安田 幸子	38
富士宮	赤池 節子	40
沼津	増山 育子	34
静岡	岡下 能弘	28
関東	杉 吉郎	44
富士川	望月のり子	41
松野	原 郁美	50
蒲原	宇佐美節子	38

仲間の文芸コーナーへ掲載する作品を募集しています。
俳句、短歌、五行歌、川柳、詩など、テーマは自由です。
ご応募、お問い合わせは、編集委員長・神田まで。
FAX 095451218122
携帯 0901322516795

平成29年度「嶺朋」総会
日時:平成29年5月14日(日)
会場:ホテルグランド富士
会費:5,000円 ※当日会場でお預かりします。
多くの皆さまのご参加をお待ちしております。
平成29年度総会の当番幹事は、S41年卒の皆さんです。
出席ご希望の方は、4月20日(木)までに下記までご連絡ください。
嶺朋 事務局 TEL.080-5134-4480 FAX.0545-51-5258
または各学年理事まで。



編集委員長 神田富美子
編集委員 小林 君子・渡邊 弘子
川島 けい・三木 政代
太田 若代

今号の表紙は小島万里子先輩の素晴らしい絵で飾らせていただきました。応接室と図書室に展示してありますので、高樓祭の時等に是非ご覧下さい。同窓生のお仲間には多才な方が多勢おられます。誠に誇らしい限りです。来年は記念すべき百十周年を控え、当誌もインパクトのある読みやすい紙面作りを心掛けております。皆様方のご感想、ご意見等、お寄せいただければ参考にさせていただきます。今回も早々に原稿をお寄せ下さった方々に心よりお礼申し上げます。(神田)

編集後記